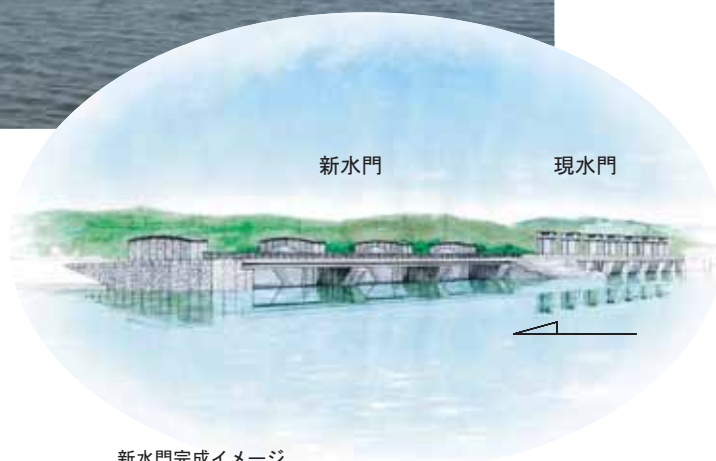


## 第4回百間川河口水門周辺有効活用方策検討協議会



百間川河口水門を百間川東側より見た風景



新水門完成イメージ

### 「百間川河口水門周辺有効活用方策検討協議会」開催される！

平成16年2月12日（木）岡山市民会館において「第4回百間川河口水門周辺有効活用方策検討協議会」が開催されました。

この協議会は、百間川河口水門増築事業の着手を契機に、河口水門周辺の自然環境の保全と改善方策、利活用方策及び水門増築事業に関する関係者間の情報の共有化、意見の集約とその対応策を検討するものです。

本号では、第4回協議会の概要についてご紹介します。

## 第4回百間川河口水門周辺有効活用方策検討協議会開催

第4回協議会では、町内会ワークショップ（意見交換会）の報告を行うとともに、河口水門周辺有効活用方策などについて検討されました。

なお、町内会ワークショップは、周辺地域の方々に本協議会の検討結果をお知らせするとともに、百間川河口水門周辺の有効活用について、提案や意見をいただくことを目的に行ったものです。

### ●協議の骨子

- 町内会ワークショップ（意見交換会）の報告
- 河口水門周辺有効活用について

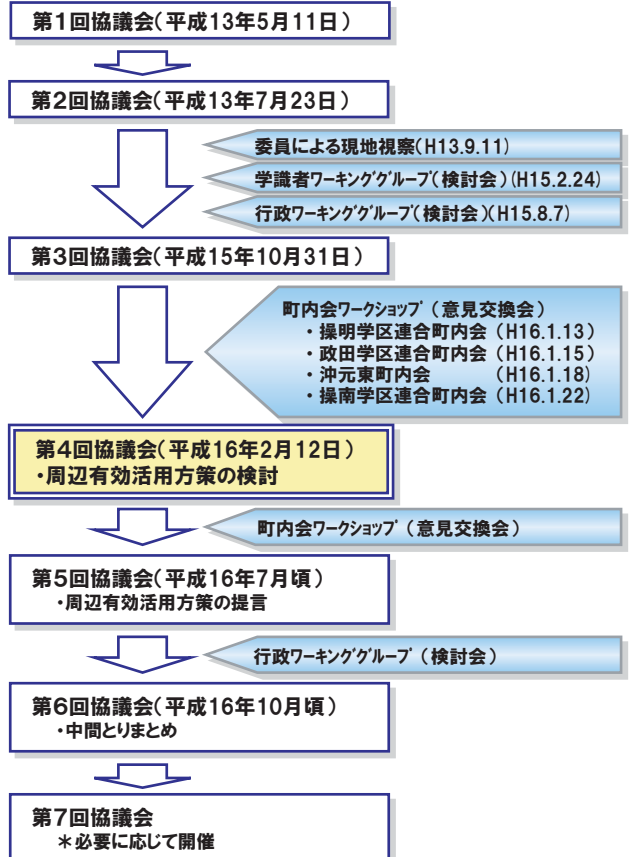
### ●資料

1. これまでの経緯について
2. 町内会ワークショップ（意見交換会）の報告
3. 河口水門周辺有効活用について
4. 今後のスケジュール(案)について

### ●参考資料

- 町内会ワークショップ（意見交換会）の意見概要

### ●今後の検討スケジュール(案)



## 有効活用の方針(案)

### ◆旭川河川環境管理基本計画に基づく基本理念◆

貴重な河川環境と、それが育んできた地域の風土や文化を守り育てるとともに、治水・利水機能と調和した適正な河川空間の保全と創造を図る。

### ◆百間川河口水門周辺有効活用の方針(案)◆

#### ①現況自然環境の保全

- 中州の適正な管理
- 生物生息環境や高島干潟の保全
- 水質、底泥の改善等による河川環境の保全

#### ②歴史的功績(治水・新田開発)の継承

- 河口水門部の歴史的な役割と変遷の継承
- 河口水門築造に携わった人々の功績の継承

#### ③地域風土と地域文化の継承

- 干拓から始まった地域風土の継承
- 史跡、名称、祭事など地域文化の継承

#### ④地域に親しまれる水辺空間の創造

- 身近な自然にふれあえる水辺空間の創造
- 自然観察・散策など自然を活用したレクリエーション空間の創造
- 人々がやすらぎ・交流できる河川空間の創造

#### ⑤地域社会の意向や将来動向への配慮

- 周辺施設や周辺計画との調整と連携
- 地元の意向や既存活動への配慮

## 河口水門周辺ゾーニング(案)の検討

# 着眼点

1

## 自然環境

### 河口水門周辺の自然環境に配慮する

視点から検討を進めていきます。

#### 百間川河口周辺の生物環境

■河口周辺で確認された主な生きもの(H7~H14)

- ・植物 ミゾコウジュなど(約200種)
- ・哺乳類 カヤネズミなど(6種)
- ・爬虫類 シマヘビなど(3種)
- ・両生類 アマガエルなど(5種)
- ・昆虫類 トノサマバッタなど(約140種)
- ・底生動物 ヒメタニシなど(140種)

出典：河川水辺の国勢調査資料など

水際(右岸)  
ヌートリア  
ウシガエル  
ゲンゴロウ  
ヒライギ  
メダカ  
テナガエビ  
ハネナガイナゴ  
コガマ

#### 右岸側~人の利用~

河川敷の多くを公園などで高度利用されており、生物の生息にはあまり適していません。

#### 水面

ミサゴの飛翔が多く確認されています。  
カワヒガイ、コウライモロコなどの魚も確認されています。

#### 水面

ミサゴの飛翔が多く確認されています。

#### 河口部

冬にはカモ類が多く見られます。魚を食べるミサゴも多く見られています。河口の川岸ではメダカやトビハゼ、マルタニシなども確認されています。

水面・水中  
カムリカイツブリ  
カワウ  
チュウサギ  
ミサゴ  
コアシサシ  
カワセミ  
ギンブナ、ワタカ

水際(左岸)  
カヤネズミ  
チョウゲンボウ  
メダカ、ヒライギ  
マハゼ、トビハゼ  
マルタニシ

中州  
カヤネズミ  
ヌートリア  
コウベモグラ  
カワセミ  
オオヨシキリ  
セッコ、オオジュリン  
チョウゲンボウ  
ハネナガイナゴ

水路  
トモエガモ  
ゲンゴロウ  
モツゴ、ニゴイ  
メダカ、メナダ  
カワヒガイ  
ミナミヌマエビ

左岸  
カヤネズミ  
ハツカネズミ、タヌキ  
オオヨシキリ、セッコ  
アマガエル  
ツチガエル  
カナヘビ、シマヘビ  
ミゾコウジュ  
ウキヤガラ

#### 左岸側~生きものの生息場所~

##### ●河川敷~水際

水際にヨシ群落、河川敷にオギ群落やセイタカアワダチソウなどが広がっており、そこにアマガエル、ツチガエル、ヌマガエルやトノサマガエルなどの様々な生きものが棲んでいます。

##### ●中州

ヨシ群落、オギ群落やセイタカアワダチソウ群落などが広がり、カヤネズミ、モグラ、オオジュリンなどの小鳥類、トノサマガエルやシマヘビなど様々な生きものの生息場所となっています。

##### ●中州との間の細い水路

昔はここでオニバスがみられました。現在ではカモ類、メダカ、エビや貝類などの生息場所となっているほか、水際には貴重な植物も見られます。

凡例	
哺乳類	■
鳥類	■
両生・爬虫類	■
魚類	■
昆虫類	■
底生動物	■
植物	■

#### 植生凡例

■	ホテイアオイ群落	■	メダケ、ネザサ群落等
■	エノコログサ群落等	■	セシダン群落
■	セイタカアワダチソウ群落等	■	人工草地
■	ヨシ群落	■	公園・グラウンド
■	オギ群落	■	人工裸地
■	メリケンカルカヤ群落等	■	コンクリート構造物
■	ジャナナギアカメヤナギ群落	■	開放水面

# 検討の流れ

## 5つの着眼点から、百間川河口

2

## 歴史的功績(治水・新田開発)

### 河口水門部の歴史的な役割や、河口水門築造に携わった人々の功績を継承する視点から検討を進めていきます。

#### 河口水門部の歴史的な役割

旭川の放水路である百間川の果たした役割は、次の4つですが、津田永忠による新たな土木技術の開発(河口部の遊水池化と樋門との組み合わせによる効率的な排水処理)によって完結したものです。

- ①岡山城下を洪水から守る放水路
- ②上道郡内の小河川の排水を処理する排水路
- ③川内四か村を洪水から守る放水路
- ④新田開発における基幹的な排水施設



#### 沖田神社



沖新田の入植者の氏神として元禄7年(1694年)、現在の社殿がある所から約1キロ南に現在の場所に移されました。

#### 古宮神社



現在の位置に鎮座する前の沖田神社です。

#### 水門碑と祠



#### 開墾遺跡碑



沖新田開拓の功労者である津田永忠の功績をたたえる開墾遺跡碑は、明治24年、開墾200年祭を記念して、建てられました。

#### 津田永忠像



#### 百間川築造300年記念碑



百間川築造以来300年にわたる水との闘いに一生を打ち込んだ幾多の先人の功績をたたえ、百間川及びその周辺の山々を模して配している記念碑。昭和61年の記念式典で除幕されました。

#### 沖新田千拓三百年記念碑



沖新田の千拓事業300年を記念して、六番川水の公園に建てられた記念碑。

水門東端に河口水門の完成を祝い明治25年に水門碑が建てられ、その隣に祠が並んでいます。

# 3

## 地域風土と地域文化

干拓から始まった地域風土や地域文化を継承する視点から検討を進めていきます。

### 干拓から始まった地域風土・地域文化

河口水門周辺地域の風土や地域文化は、沖新田の干拓から始まります。新田に道路・用水路・橋・樋門・大堤を整備した後、隣村をはじめ和気・赤磐・邑久・備中・児島からも入植者が集まりました。干拓地に暮らす人々に受け継がれてきた生活や知恵、祈りなどを今でも見ることができます。

#### 沖新田の農業・生活習慣

- 堤防近くの湿地帯では、低い土地、塩害対策、荷物の運搬のため、堀上げ田と水路を交互に配した「堀田」で耕作が行われていました。
- 干拓地では井戸堀をしても塩分を含み、飲料水に大変苦労し、「水濾壘」を使って生活していました。大正時代中頃から各集落ごとで共同の大型濾過槽を設け、用水から飲料水を確保するようになりました。用水は、農業面だけでなく、日常生活面においても非常に重要でした。
- また、お地神が各旧町内に1・2か所あり、春の社日には米・麦・粟・黍・豆などの豊作を祈り、秋の社日には初穂を供え感謝しています。



堀田



濾過槽

濾過槽の構造イメージ



お地神さま

小学生による用水掃除 (S12)



#### 漁業の変遷

- 戦前までは、堤防の外でライトを照らして魚を獲るベカたき漁が行われていました。
- 四つ手網漁は、六番川で行われていたが、埋め立てにより、現在の位置へ移りました。



ベカたき漁 (戦前)

四つ手網漁

# 河口水門周辺の特徴を把握し...

# 4

## 水辺空間

水辺空間に配慮する視点から検討を進めていきます。



A 河川敷の状況

B 河川敷の状況

C 河川敷の状況



# 5

## 地域社会の意向や将来動向

地域社会の意向や既存活動、既存計画などの視点から検討を進めていきます。

#### 既存活動

##### ●河川清掃活動

小学生・中学生・ボランティア団体等による清掃活動が実施されている。



##### ●桜の植栽

周辺地域における桜並木の形成に向けた働きかけが活発で、百間川右岸側(四番川沿い)にて桜の植栽が実施されている。



#### 道路計画(岡山市)

- ①市道沖元1号線
  - W=7m(2車線)に拡幅。(H15年度末に完成予定。)
  - W=7m(2車線)に拡幅。(整備時期及び道路形状は、水防拠点計画と調整を図り、整備していく予定。)
- ②市道小橋町沖元線
  - W=11m(2車線、片側歩道)に拡幅。(県が高潮対策事業と合わせて、H12年度頃に完成予定。)
  - W=7m(2車線)に拡幅。(河口水門増築事業完了後に、市が関係機関と協議の上、整備していく予定。ただし、現水門部は、改築時に整備していく予定。)
- ③市道政津沖元線
  - W=7m(2車線)に拡幅済み。(県道江崎金岡線～市道升田邑久郷線間)市道升田邑久郷線より南については、整備の予定なし。
- ④市道沖元
  - W=7m(2車線)に拡幅。(河口水門増築事業完了後に、市が関係機関と協議の上、整備していく予定。)
- ⑤都市計画道路岡南線
  - W=50mで整備。(当面、旭川より西側へ向けて整備を計画しており、百間川を渡る区間の着手時期は未定。)

①水域空間

自然ゾーン

- ・広い水面のつくる開放的な河川景観の保全を基調とし、原則として治水・利水目的以外の人工的改変を行わない。
- ・水面の秩序ある利用を推進する。



②陸域空間

自然利用ゾーン

- ・百間川の身近な自然とふれあひ楽しむことのできるよう野草広場、自然観察広場を整備する。
- ・高水敷や水辺の植生を保全するとともに、自然を生かした河岸整備を検討する。

整備ゾーン

- ・広い高水敷を活用し、運動広場・野球場・テニスコート等のスポーツ施設や、イベント等の行える多目的広場・芝生広場を整備する。
- ・運動施設の配置は連続させることなく、自由に利用できる広場等を適宜配置する。
- ・百間川の歴史や文化を学習し、川への親しみを養う場として、歴史の広場を整備する。
- ・高水敷と低水路を有機的に結び、より自然的な河川空間を創造し、親水性を向上させるため、緩傾斜護岸や親水護岸を整備する。
- ・施設を有機的に結ぶサイクリングコース、遊歩道を整備する。

そして、現計画と地域住民からの提案を踏まえつつ...

河口水門周辺ゾーニング(案)の検討

地域住民の提案 (町内会ワークショップ)

これらは、町内会ワークショップ(意見交換会)における周辺有効活用の提案・意見を示したものです。

◆水防拠点整備について

- 平常時の活用
  - ・テニス、グランドゴルフ等ができるスポーツ広場として整備する。
  - ・会議室や研修室として利用できる施設を設け、地域住民のコミュニティの場として利用する。
  - ・桜等を植え、やすらぎの場として利用する。
- 災害時の活用
  - ・一時避難場所を確保する。
  - ・防災設備として無線、水舟、風速計、水位計、地震計、照明を設置する。電力は、太陽光や風力を活用する。
  - ・「自主防災会」の資材置き場を確保する。
- 桜並木を登橋下流(沖元1号線沿い)へ延長予定であり、水防拠点箇所も合わせて一体的に整備する。
- 整備にあたり、ゴミの不法投棄対策も考慮する。

◆水質浄化について(全体)

- ・水質浄化を目的として、水際に葦や水生植物を植える。

◆河口周辺の美化について(全体)

- ・市民の憩いの場、ゴミの不法投棄防止を目的として、河口周辺の堤防に多年草を植える。

◆周辺道路整備について

- 沖元1号線について
  - ・現水門西側の道路を水防拠点北側にした場合、交差点周辺の沖元1号線の縦断勾配はできるだけ緩くし、防護柵はガードパイプとし車両確認に配慮する。

◆周辺道路整備について

- 登橋について
  - ・現況の幅員が狭いため、拡幅もしくは取り付け部の改築をする。

◆漕艇会場の跡地利用について

- 高水敷を公園・スポーツ広場として活用する。
  - ・トイレ、木陰、駐車場等を整備する。
  - ・テニス、グランドゴルフ等ができる場として整備する。
- 緩傾斜堤防法面を市民が休憩・休息できるように草の維持・管理をする。

◆中州の保全について

- ・百間川橋下流の中州を野鳥が棲みやすい場として保全を図る。

◆周辺道路整備について

- 小橋町沖元線について
  - ・海岸沿いに直線となるよう改築する。
  - ・現水門西側を水防拠点北側に切り替え、あわせて堤防との交差点部や現水門の前後に信号機を設置する。
  - ・現水門部及びその前後を7mに拡幅する。
  - ・霧対策のため、水門周辺道路に照を設置する。

◆歴史の継承について

- ・現水門東側の水門碑を水防拠点内へ移設する等、歴史が継承できる空間を確保する。

◆三角地(百間川河口東側)整備について

- ・六番川水の公園と一体的に整備する。(桜や遊歩道等)

◆周辺道路整備について

- 政津沖元線について
  - ・升田邑久郷線より南について、下流端まで延伸する。
  - ・清内橋上流も整備する。

◆桜の植栽について

- ・清内橋周辺の右岸堤防沿い(堤防裏法面)に桜や樹木を整備する。
- ・右岸側同様、左岸堤防沿い(堤防裏法面)にも桜並木を整備する。



## 第4回協議会での意見概要

### ●周辺有効活用に関する意見

区分	意見概要	事務局等による回答等
自然環境の保全について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中州(清内橋下流)の自然環境保全にはゴミ対策等の維持管理面との調整をどう行うかが課題である。</li> <li>・河口部周辺でのオニバスの再生については、考えられないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然保護と環境保全との整合について、環境保全条例の改正を進めており、必要に応じて共生地域や保護地域等を設定するなど、関係機関とともに取り組んでいきたい。(岡山市)</li> <li>・学識経験者からは浚渫等によりオニバスが自然再生する可能性もあると聞いている。</li> </ul>
水辺空間の創造について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草刈り後の処理策として、ヨシの有効な利用についても考えてほしい。また、親しまれる空間づくりとして、カラシナ(アブラナ)を植えて地域の特性はつくれないか。</li> <li>・河口部周辺では、水辺の小動物等に適した植栽や自然に優しい護岸工法など、きめ細やかな水辺整備を考えてほしい。</li> <li>・桜並木等の整備後の維持管理について、行政だけでなく地域住民としてどの程度協力していくのかも調整しておく必要があるのではないかと。特に整備場所への不法投棄に対する対策は重要である。</li> <li>・地域住民と行政が一体となった川づくりや維持管理は、非常に重要であり、モデルケースとして取り組んではどうか。</li> <li>・国体に備え、各町内会ではプランターに花を植えるなど美化に取り組んでいるが、堤防を利用してコスモスを植えるなどの美化はできないか。</li> <li>・百間川河口東側の三角地は、現在ある自然を生かしつつ、六番川水の公園と岡東浄化センターの周囲を桜並木で結ぶ散策路として整備できないか。また、整備後の管理は地域のボランティアも考えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不法投棄の問題として、防止対策では監視及び罰則等を強化する方向で条例を改正中である。投棄物の処理では、基本的には管理者で費用負担すべきと考えるが、ボランティアや地元町内会等にご協力頂いているのが現状であり、今後とも市民協働のまちづくりとして取り組んでいきたい。(岡山市)</li> <li>・本日頂いた各委員からの意見も踏まえ、ゾーニングの具体案については、地域住民と意見交換できるような細部にわたってもう少し具体的なものを示したい。</li> </ul>
地域社会の意向等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺有効活用の検討が百間川河口水門工事中だけの一過性のものでなく、将来に渡って最後まで関わってほしい。</li> <li>・市道政津沖元線が百間川河口まで延伸の計画がない理由を詳しく説明してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と河川管理者、自治体との協力関係や他省庁との連携が非常に重要であり、調整しながら進めていきたい。</li> <li>・道路計画のご意見については、別途、岡山市へ確認する。</li> </ul>

### ●河口水門に関わる事項

区分	意見概要	事務局等による回答等
塩水浸入について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩水浸入については、やってみないとわからないが、殆どの地域住民が反対しており、考慮してほしい。</li> <li>・塩害の懸念から沖元樋門まで塩水が上がっては困る。十分配慮の上、試行して頂きたい。</li> <li>・塩水浸入の際、深みに塩水が溜まらないよう考慮する必要がある。</li> <li>・塩水の適切なコントロールが重要であるが、水の流動や滞留時間の短縮により、水質浄化効果はあると考えており、どの程度効果があるのか確かめる価値はある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試行にあたっては十分調査を行い、情報公開し、地域住民の方々の合意のもとで進めていきたい。</li> </ul>

### ●その他の意見

意見概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の基礎データとして、百間川周辺の地下水位、淡水と塩水の境界など地下水調査を行ってほしい。</li> <li>・百間川の周辺整備にあたり、瀬戸内海や児島湾の潮位や地盤変動の把握は重要であり、調査をしてほしい。</li> </ul>

協議会での協議内容、協議会資料の詳細については、岡山河川事務所ホームページ(広報、閲覧コーナー)をごらんください。

国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所 調査設計課

岡山市鹿田町2丁目4番36号 TEL 086-223-5101

岡山河川事務所ホームページ <http://www.okakawa-mlit.go.jp>